

海外安全対策情報（ポルトガル・2021年4月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

（1）治安情勢等

ア 犯罪発生状況

当国における2020年の犯罪認知総件数は298,797件で、前年より11%減少し、このうち、凶悪犯罪認知件数は12,469件で、前年より13.4%減少した。凶悪犯罪は、2008年以降減少傾向が継続している。なお、顕著に増加した犯罪は不服従罪(+57.6%)で、増加の背景には、新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限措置に関する治安機関の取締りが強化されたことがある。凶悪犯罪については、薬局強盗(+52.1%)、強要(+30.2%)等が増加し、路上強盗(-20.7%)、ひったくり強盗(-26.9%)、略取誘拐(-24.9%)等が減少した。サイバー詐欺は、21.7%増加している。

イ インターネット関連犯罪の増加

検察庁サイバー犯罪室によると、昨年(2020年)の犯罪被害受付件数は544件(前年比+351件)で、その内138件で捜査が実施された。サイバー犯罪増加の背景には、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、仕事や生活でインターネットを使用することが増えたことがあると見られる。金融機関関連詐欺、銀行情報の不正入手等様々な被害が報告されている。

ウ リスボン市内監視カメラの設置

内務省の発表によると、人やモノの安全確保と犯罪防止を目的として、リスボン市内に合計216台の監視カメラの設置が許可された。対象地区は16カ所で、コメルシオ広場、ロシオ広場、サンタ・カタリーナ展望台等が含まれる。24時間365日稼働し、個人情報の保護を確保した上で、映像及び音声の記録が行われる。昨年9月には、リスボン市内に隣接するアマドーラ市内でも監視カメラの台数の拡大(38台から141台)が許可されている。

エ PSP(治安警察庁)によるフリーガン対策

PSPリスボン首都圏本部、ポルト大都市圏本部及びブラガ県本部には、フリーガンと呼ばれる熱狂的なサポーターを監視する専門班が存在する。現在、PSPのデータベースには約500名がフリーガンとして登録されており、214名のサポーターが、裁判所の決定により、スポーツ競技場への入場を禁止されている。

（2）邦人被害

令和3年1~3月の間、大使館に届けられた邦人の当国での犯罪被害件数は0件であった。

2 報道による凶悪犯罪等の事例

- 1月19日午後9時過ぎ、リスボン市内バイシャ地区において、18歳の男性が2人組に所持品を出すよう強要された。男性が抵抗したところ、刃物で切りつけられ携帯電話を奪われた。
- 1月25日、地下鉄オディヴェラス駅の連絡通路で、友人と歩いていた14歳の少女が男に刃物を突きつけられ携帯電話を奪われた。
- 1月29日午前9時過ぎ、マトジニョス市内にある銀行に覆面の男が押し入り、けん銃様のものをちらつかせ、現金1,700ユーロを奪って逃走した。
- 2月18日、ロウザダ市内にある住宅に男が押し入り、85歳の女性を刃物で切りつけ、現金を奪って逃走した。
- 2月21日8時過ぎ、セトゥーバル市にあるバラックで発砲事件が発生し、30歳の男性が死亡した。バラックは約1年前から違法ディスコとして営業しており、客同士のトラブルが原因とみられる。
- 2月25日夕方、リスボン市カルニデ地区にある鍵のかかかっていない住宅の窓から2人組が侵入し、家人をけん銃で脅し、現金、携帯電話、貴金属等を奪って逃走した。
- 2月26日、午後7時40分頃、マイア市内の文房具店に覆面をした2人組が押し入り、店員の頭を殴るなどして、現金を奪って逃走した。逃走の際、2人組は、威嚇発砲するなどした。
- 2月27日午後8時20分頃、サンタ・コンバ・ダン市内の住宅に2人組が押し入り、寝室にいた66歳の女性の顔や頭部を殴った後手足を縛り、車のトランクに閉じ込めた。2人組は、その間に室内を物色し、金庫にあった現金3万ユーロ等を奪って逃走した。
- 3月14日午後4時過ぎ、カスカイス市アルカビデシェ地区にある住宅の扉を破壊して4人組が室内に侵入。73歳の男性に暴行を加え、金品を奪って逃走した。3月10日にも同様の事件が同じ地区で発生している。
- 3月23日、シントラ市にある菓子販売店兼住宅の建物シャッターを破壊して3人組が侵入しようとした。アラームが作動したため、経営者の男性が店を見に行ったところ、店舗前で犯人グループと鉢合わせし、男性は犯人に銃で撃たれ死亡した。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ポルトガルにおけるテロ関連動向は把握されなかった。

4 誘拐事件発生状況

特になし。

5 対日感情

良好。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、脅迫や何らかの事件に巻き込まれたという事案の発生は報告されていない。